

栗井村に コミュニティセンターカフェ



カフェの赤星マスター



歌うま美人ウエートレス

粟井村始まって以来の歴史的出来事、「コミュニティセンターカフェ」の誕生です。当日は用意した「コーヒー豆」がなくなるほどの大盛況でした。これから粟井村のあるべき姿の具現化への一歩が始まります。毎週水曜日開店です。図書室も解放し、図書の貸し出しもはじめます。畳で足を伸ばす場所も確保しました。みなさん、いちごは足を運び、自分の希望を語って下さい。

【十一月九日】



アワイスタディーニスターミヨハ 栗井村の学び駅

■コミュニティセンター

スタートは、まず集うことです。飲みニケーションです。水曜日はランドゴルフの定例日です。開店日は、「能登香」ミニ体操もあわせて行いました。料理教室も水曜日に検討中です。まずは、週一に集うことから始めます。

★サテライト型サービス…福祉活動ですが、希望のある粟井地区でのデイサービスもいいアイデアだと思います。コーヒーを飲みながらの楽しい語りもサービスでしようか。

★世代間交流活動…どのように世代間交流に繋げていけばいいか検討中です。

★土、日の営業…これが始まると、世代間交流や、子育て世代の交流が一段と進み、風呂が出来れば二世世代の交流に繋がります。職員も常駐できます。「要望書」のとりまとめが急がれます。宿泊施設が出来れば合宿も出来ます。みなさんの希望はどこにあるのでしょうか。

■子どもが集える児童館

☆子育て世代の情報交換や悩み事相談の場…まずは、小さな子どもが親子が集えるよう、より楽しい場にするために、家で不要になったおもちゃなどあれば持ち寄りをお願いします。

☆放課後児童クラブ…毎週月曜日の粟井地区の「スポーツ少年団活動」、火曜日は、水曜日は、放課後児童クラブは、共稼ぎの子育て世代に共通の要望です。これらは行政とも連携して進めます。

■みんなが使える木工室

★木工教室…木工ろくろ、バンドソー、レーザーカッター、ボール盤等がそろい、設備は少しずつ整ってきています。家で使われていない工作機械の寄付は嬉しいです。板切れ等の端材があれば有効に使わせて頂きます。一報下さい。

★趣味の教室…老人福祉センターで行われている手芸教室、日本舞踊、学校では、カラオケ教室、料理教室、パソコン教室等が行われています。今後、剣道教室、囲碁教室、農業体験教室など、可能性は膨らんでいます。

■有効な施設利用

☆施設使用予約の受付…最終的には、作東老人福祉センターで一本化して受け付けていますが、水曜日は、カフェでも受け付けます。

☆図書の貸し出し…カフェのある日は、図書室を開放し、本の貸出も行います。将来的には、家庭で眠っている本を持ち寄り、図書の充実をはかる計画です。「晴耕雨読」の日は、ストーリーにあたり、「コーヒー」を飲みながらの読書三昧もよし。

☆施設活用の要望の集約…これが目的の一つです。ごあってほしいと思うことがあれば、まずはマスターに提案してみよう。



美作市自治振興協議会 視察研修

広島県安芸高田市 川根振興協議会

【十一月十七日】

美作市自治振興から20名、市長はじめ市職員10名、計30名の視察研修でした。「小さな拠点づくり」のモデル地区として、小田切先生の本でも紹介されている川根振興協議会、近くでは「あま村宣言」の津山市阿波地区があり、元祖は何と言っても川根です。逆境をバネに、住民参加の自治を成し遂げた地区です。念願叶って、美作市自治振興協議会の視察研修に行ってきました。

安芸高田市の川根地区は、旧高宮町で最も居住条件が不利な地域と言われている。2000人以上いた地区人口は、現在600人を下回り、高齢化率は50%を超えている。

川根振興協議会の主な活動内容は、①農協閉店後の店舗とガソリンスタンドを譲り受けての営業、②廃校となった中学校を利用し「コミュニティ」での飲食と宿泊サービスの提供、③地域でのサービスなど多様である。

これらの活動は、地元住民が「心の過疎」からの脱却を目指して、地域で「自分達がつり生きるか」を追求していったことと密接な繋がりがあがる。

○お互いさま隊…民生委員をサポートする組織(粟井では福祉ボランティアの会)

○一人一円募金…高齢者への宅配サービスのための原資

○サテライト・ディサービス…サービスセンターからスタッフを呼んで、地区内の施設でサービス

○まごころメール…小学生から高齢者に向けて月一回手紙を出す。

○お好み住宅で地域の担い手づくり…入居者が自分の好みで自由に間取りを設計できる借家制度

○Eコミュニティ・シニアム川根…行政と住民の出資金で運営する宿泊研修施設。レストランや会議のできるホールもある。レストランは、地元の女性で運営。

○ホタルのイベント…清流長瀬川のホタルの生育環境を守るうと河川清掃や家庭排水対策を行ってきた。都市部から5000人も観光客が鑑賞に訪れる。

○地区の農地の一括管理…振興協議会の中の営農環境委員会が農地全体をまとめて管理運営している。

住民意識が、要求から提言に変わった。役員は任期二年一期では、何も出来ない。覚悟を持って取り組む必要がある。やってあげれば次はやってもらえぬ。

